

ショパンの「ピアノ協奏曲2番」の2楽章ラルゲット、弦楽四重奏との室内楽ヴァージョン。くつきり聴こえるピアノにドッキリ、一音一音ゆっくり情感込めて、恋する気持ち・愛の言葉、作曲家に成り代わっての独白。深い切々たる素直なメッセージの吐露、甘く優しいマッシュマロ・タッチでないのは意外。楷書的実直さのあらわれ、いや通常オーケストラに隠れてしまうニュアンスの表出。ノーブルでエレガント、格調高いアプローチ、ロマンチック過剰のもたれ込みはなし。ピアノが主導コンダクター的役割、率先して雰囲気の創出、目指す音楽真っ只中。コンセントレーションの高揚、聴かせ処で5名の気持ちがジャスト相和す、達成充実感。

「夢」、ドビュッシーの小品の一つ、殆ど初めて、ユーチューブと手持ちのCDで慌てて準備、どこかで聴いたフレーズ。ふんわりとした柔かさ、幻想的に広がる甘美さ、アタマいっぱいジワジワ浸透。パステルカラーの光と影、まどろみ漂うファンタジー、捉えどころない印象派ワールド。湧き上がるイメージの積み重ね、繋がり薄く流れず停滞模様。曖昧模糊の中、一瞬のクリアランス、少し場違い違和感、意味付けに戸惑う表現、驚きのウロタエ覚醒。

フォーレの「シリエンヌ」、サラリ颯爽軽やかな足取り、語尾不明うやむやフェードアウト、フルートとピアノならばの先入観。ピアノ・ソロでは初めて、穏やかでしつとり、だが曖昧さ排除のくつきり志向、スケルトンの明確化を確認。また、整然たる音楽の流れ、唐突の曲想転換、あたかも斜行チェンジ、一度でなく何度も繰り返し。何コレの驚きとともに、重ね合う音の面白みを再確認。隠れていた作曲家の工夫、ピアニストが際立たせる。(2015.6.23)

---

モーツアルト：ディヴェルティメント二長調 K.136(カルテット)

ドビュッシー：夢

フォーレ：シリエンヌ

ショパン：ピアノ協奏曲 2番 へ短調 Op.21から 2楽章(ピアノ&カルテット)

(アンコール)<BR>

シューマン：トロイメライ Op.15-7 子供の情景から(カルテット)

ショパン：ノックターン 2番 変ホ長調 Op.9-2>

【弦楽四重奏】コンセール・サンティ富山

